

WORLD TOPICS

ISO/TC225 WG2 第3回国際会議 参加報告

TC225 国内対策委員会 委員長 一ノ瀬 裕幸
同委員 古川 史人

1. 国際会議の概要

10月のニューヨーク会議で積み残した議題を継続審議するため、WG2の第3回国際会議がマドリードで開催された。

日 時： 2007年1月29日(月)～30日(火)
会議名： ISO/TC225 WG2 第3回国際会議
参加者： WG2メンバー(11カ国、計22名参加)
Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)
Secretary: Dr. Holger Muehlbauer (DIN 事務局)
参加国： オーストラリア(1)、スペイン(4)、フランス(4)、イタリア(1)、メキシコ(1)、
日本(一ノ瀬、古川：2)、オランダ(1)、イギリス(2)、カナダ(1)、アメリカ(1)、
ドイツ(WG2議長国：4)
場 所： スペイン、マドリード(AENORの会議室)

2. 討議/決定事項

「規格要求事項」に関するドラフト原案の検討をひと通り終了し、次回の第4回東京会議に提案するCD(Committee Draft)作成のための、実務的な編集作業を行うワーキングチームを編成した。3月上旬をメドに修正版を再配布する。

「用語の定義」の章については今回も議論が及ばず、次回東京会議の冒頭から討議を行うこととなった。

また、次回東京会議の目標としては、CDを採択し、国際投票にかける手順へと進めることを再確認した。

3. 今後の作業スケジュール

2007年4月16～17日、東京(日本)にて第4回WG2を開催する。

2007年9月中旬、ベルリン(ドイツ)にて第5回WG2を開催する。

(この会議に続けて、TC225の第5回全体会議を開催する。)

2008年2月をメドに、シドニー(オーストラリア)にて最終WG2を開催する。

注) 最終制定目標は2008年12月を予定している。

4. 会議の状況と関連情報

(1) 数値目標はほとんどが除外され、自由度は担保された

- ・ 紛糾が予想され、懸念もされていた各種の数値目標設定については、最終的にはそのほとんどがドラフトから除外されることとなった。各国の実情に沿った、一定の自由度が確保される見通しである。
- ・ ただし、第三者認証を受けようとする調査会社またはアクセスパネルのサービスプロバイダーにおいては、要求事項を満たすためにどのような規定を設け、どう管理運営を行っているかを明確にしなければならないことには変わりなく、規格が「簡単になったわけではない」ことを銘記しておく必要がある。

(2) フランスの業界代表がWGに復帰、挽回に懸命

- ・ ISO20252のFDIS採択以降、TCやWGを欠席していたフランスの業界団体代表（調査会社のメンバー）が徐々に姿を見せ、積極的に議論に参画したことが今回のトピックスであった（ここ2~3回、フランスからは政府機関代表だけが参加し、調査機関の利害関係者とみられるメンバーは欠席を続けていた）。
- ・ また、そのメンバーも従来からの継続者は1人だけで、インターネット調査を専業とする調査会社の2名が新たに加わる形となった。従前のままではフランスにとって不利な決定がなされるかも知れず、危機感を抱いて挽回に乗り出したものと考えられる。

(3) 主要国でのISO20252の認証状況

- ・ 前回のニューヨーク会議の時点では、第三者認証の手続きが開始されたのはイギリスのみであったが、今回はオーストラリアから「国家規格として制度化され、すでに20社の申請を受け付け、あと20社が準備に入っている」旨の報告があった。当面は50社の取得を目標として、最終的には100社を目指すとのことであった。
なお、オーストラリアではISO9000を取得している会社においては、同時に20252も取り、かつ1回の審査で両方をカバーできるようにしている。

(4) その他懸案事項

- ・ 「ISO20252と、今回のアクセスパネルの規格認証は両方を同時に取得する必要があるのか？」が問題となった。インターネット調査を実施している調査会社であれば「両方を取ればよい」ということになるが、いわゆる「サンプル貸し」を行っているだけのサービスプロバイダーにとっては、実務上は20252までは不要となるが、「20252のことは知らない」で済まされるものなのかどうか？ という議論でもある。この点にはまだ明確な指針を打ち出せていない状況である。

以上